

## 令和7年中における安全運転管理者選任事業所の交通事故発生状況（千葉県内）

本資料は、安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が千葉県内において業務中又は通勤中の運転により起こした人身事故を分析したものです。

注1：物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含まれていません。

注2：安管事業所の従業員が起こした事故であっても、買物やレジャーなどプライベートな業務中の事故の数値は含まれていません。

注3：他県の安管事業所の従業員が千葉県内で起こした事故の数値が含まれていますが、本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含まれていません。

注4 本文と各グラフの構成率（％）は表記以外の数値を四捨五入しているため、各構成率の和が100％にならない場合があります。

### 1 安全運転管理者等選任事業所の交通死亡事故の概要（千葉県内）

1	1月8日（水） 13:01	香取郡東庄町 平山	県道	卸売・小売業 40歳代（女） 普貨	70歳代（男） 自転車【死亡】	業務
2	2月4日（火） 5:23	袖ヶ浦市 蔵波	市道	サービス業 60歳代（男） 軽乗	70歳代（女） 歩行者【死亡】	通勤
3	4月23日（水） 2:55	成田市 北須賀	国道 464号	宿泊業 20歳代（女） 軽乗【死亡】	40歳代（男） 大貨	通勤
4	7月4日（金） 6:20	我孫子市 高野山	国道 356号	運輸業 50歳代（男） 普乗	80歳代（男） 普乗【死亡】	通勤
5	12月5日（金） 10:58	成田市 吉倉	高速道路	職業運転者 50歳代（男） 大貨	60歳代（女） 歩行者【死亡】	業務
6	12月17日（水） 19:50	千葉市若葉区 桜木	国道 51号	卸売・小売業 50歳代（男） 普乗	70歳代（男） 歩行者【死亡】	通勤
7	12月19日（金） 8:10	香取郡東庄町 笹川	町道	職業運転者 70歳代（男） 軽乗	90歳代（女2人） 1当同乗者【死亡】	業務

(1) 令和7年中の安全運転管理者選任事業所の交通死亡事故は7件、死者数は8人であり、令和6年中に比べ発生件数は7件減少し、死者数も6人減少しています。

(2) 死亡事故7件中4件が通勤中に発生しています。

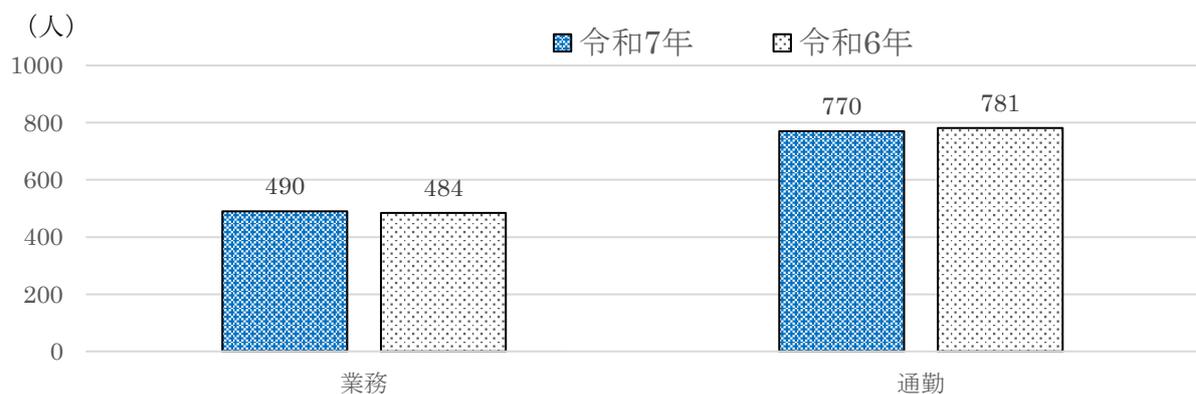
(3) 死者8人中6人が高齢者で、内2人が歩行者でした。令和6年中と同様に高齢の歩行者が犠牲になる比率が高くなっています。

## 2 安全運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況（千葉県内）

		累 計			
		令和7年	令和6年	増減数	増減率
発生件数		1,260	1,265	-5	-0.4
昼	日の出1時間後	72	67	5	7.5
	その他昼	744	776	-32	-4.1
	日の入1時間前	83	69	14	20.3
	昼計	899	912	-13	-1.4
夜	日の入1時間後	105	101	4	4.0
	その他夜	228	228	0	0.0
	日の出1時間前	28	24	4	16.7
	夜計	361	353	8	2.3
死者数		8	14	-6	-42.9
負傷者数		1,537	1,476	61	4.1
重傷者数		129	160	-31	-19.4
軽傷者数		1,408	1,316	92	7.0

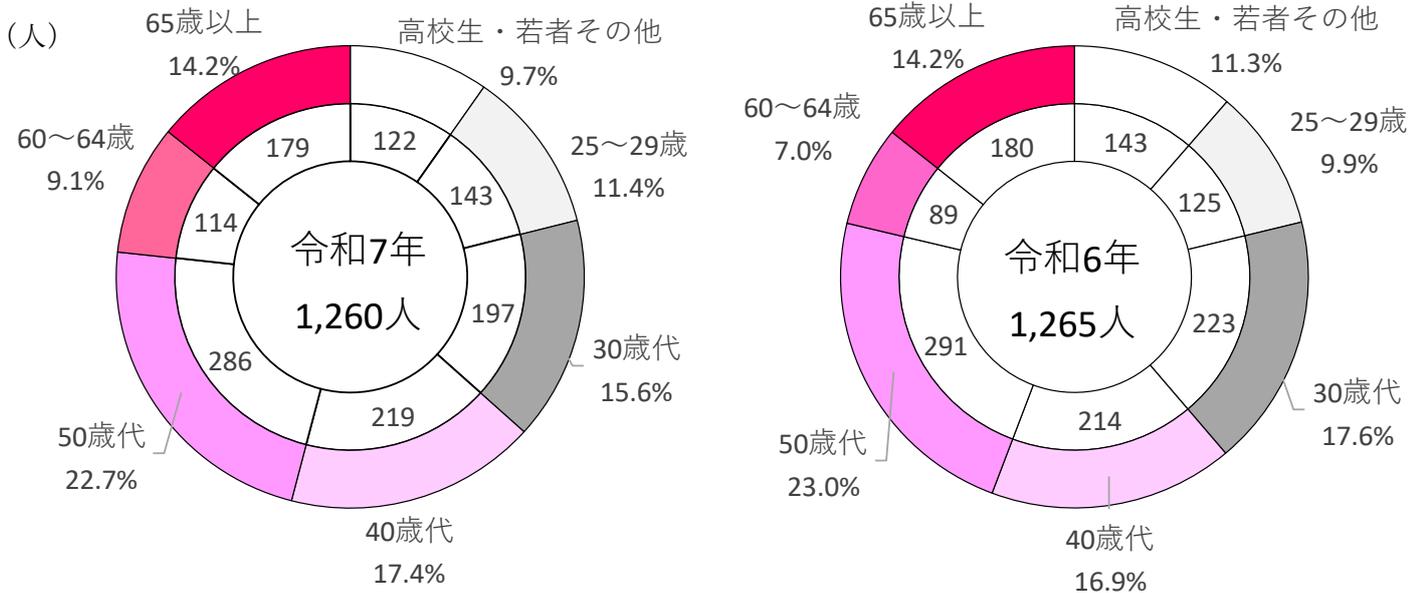
令和7年中における安管選任事業所従業員に係る交通事故は、令和6年中に比べ発生件数が5件、死者数が6人減少していますが、負傷者数は61人（+4.1%）増加しています。

## 3 第1当事者の運行目的別発生状況



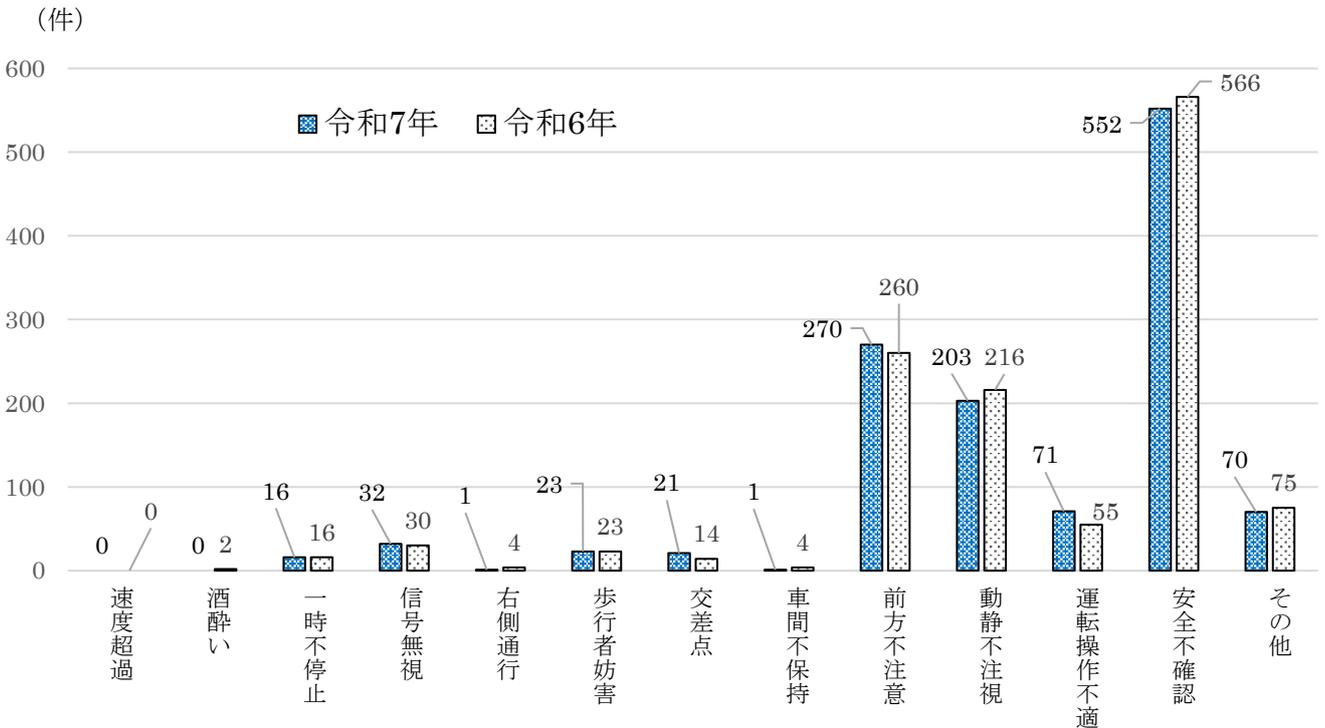
運行目的別では業務中より通勤中の事故の方が多くなっています。マイカー通勤中の交通事故であっても、民法上の「使用者責任」により、雇用主等が賠償責任を負うことがあります。通勤中の安全運転管理にも取り組んでください。

#### 4 第1当事者の年齢層別発生状況



事故の第1当事者となった高齢者（65歳以上）は179人、（令和7年全体の14.2%）でした。高齢化社会の進展に伴い、事業所の高齢ドライバーも増加していく傾向にありますので、高齢者の特性を踏まえた事故防止対策を推進してください。

#### 5 第1当事者の違反・原因別発生状況

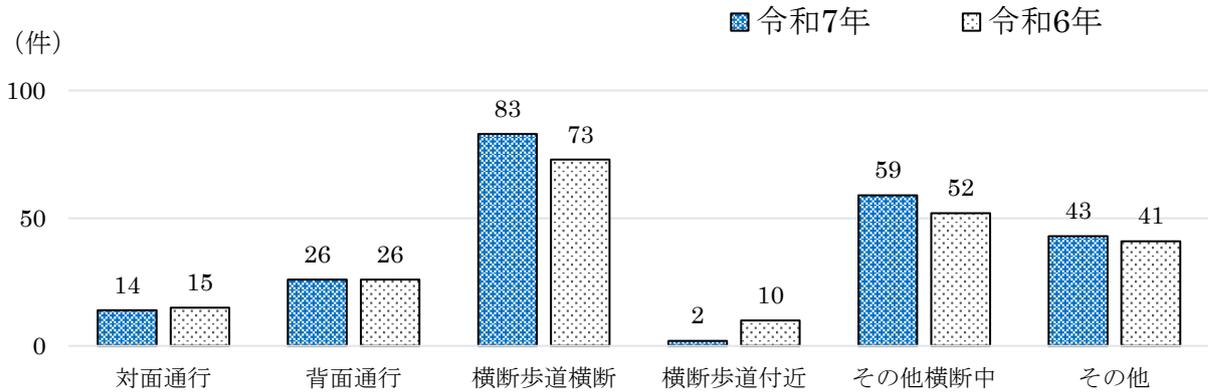


事故原因は、前方不注意、動静不注視、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が計1,096件で事故原因の87.0%を占めています。

注1：酒気帯び運転は事故原因として計上されていません。また、運行目的がレジャーや買い物などプライベートな場合は計上されていません。

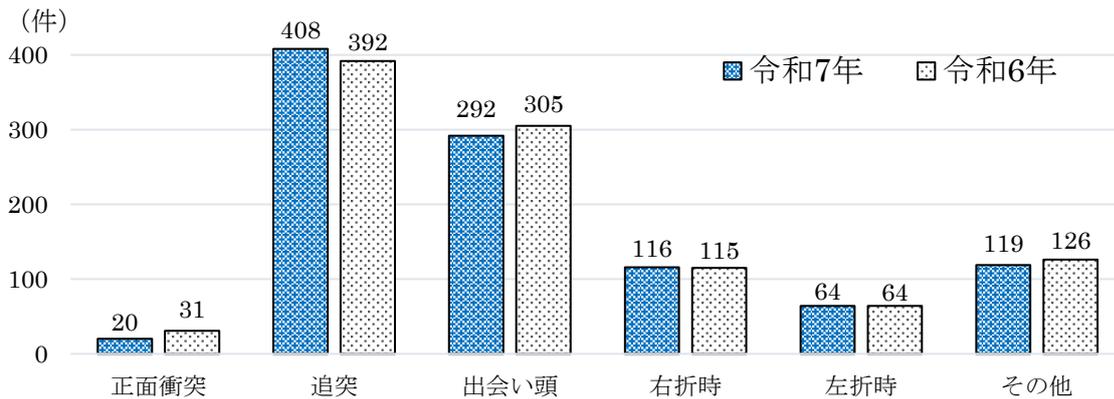
## 6 事故類型別発生状況

### (1) 人対車両 (令和7年計 227件)



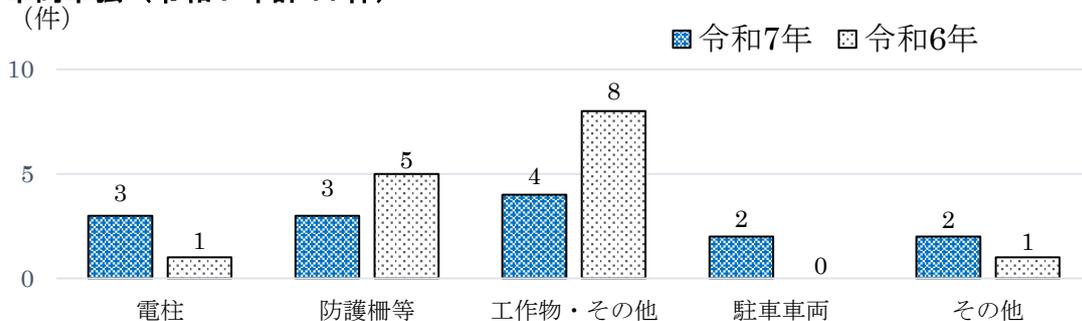
横断歩道横断中の歩行者は最も保護されるべき対象ですが、人対車両事故 227 件中、横断歩道横断中の事故が 83 件 33.6%と最も多く、これは令和7年中の安全運転管理者選任事業所の交通事故発生数(全事故)の9.6%となっています。横断中の歩行者の発見が遅れることがないように、交差点を右折又は左折する際は歩行者の有無に注意するよう指導してください。

### (2) 車両相互 (令和7年計 1,019件)



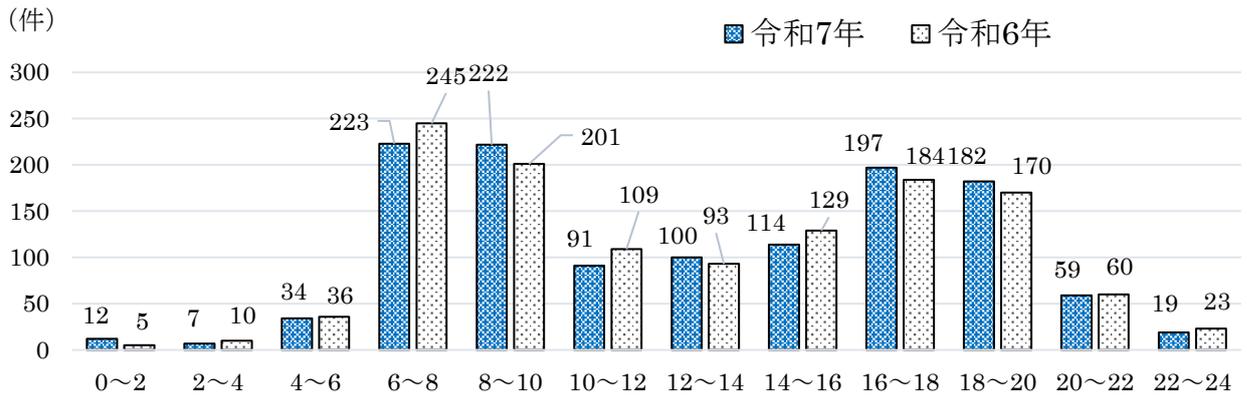
車両相互の事故 1,019 件中、最も多かった事故形態は追突事故で 32.4%、前年比+16 件でした。次に多かったのは出会い頭事故で 292 件、全事故の 23.2%、前年比-13 件です。出会い頭事故は追突事故に比べ重傷事故になりやすいので、信号機のない交差点では交通法令に従い、徐行または一時停止と安全確認を確実に実施してください。

### (3) 車両単独 (令和7年計 14件)



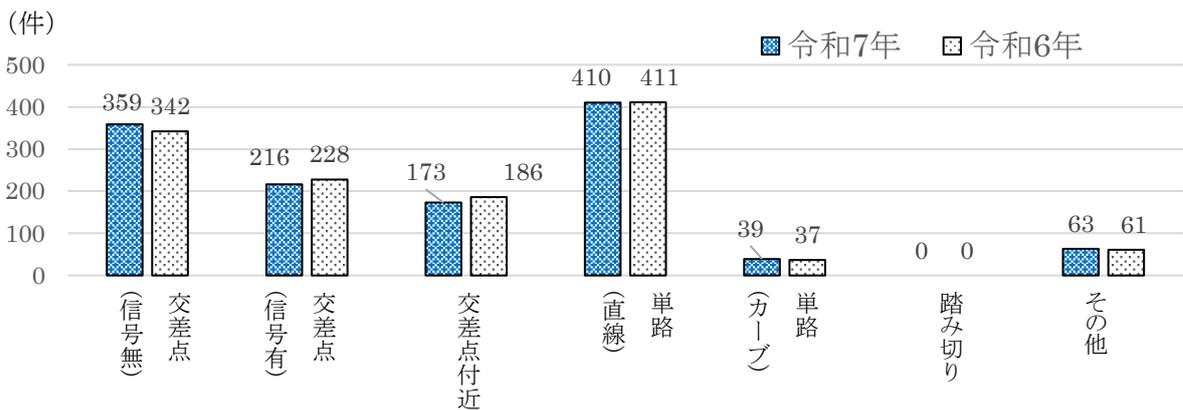
単独事故は 14 件 (前年比-1 件) で、うち 1 件が死亡事故です。

## 7 時間帯別発生状況



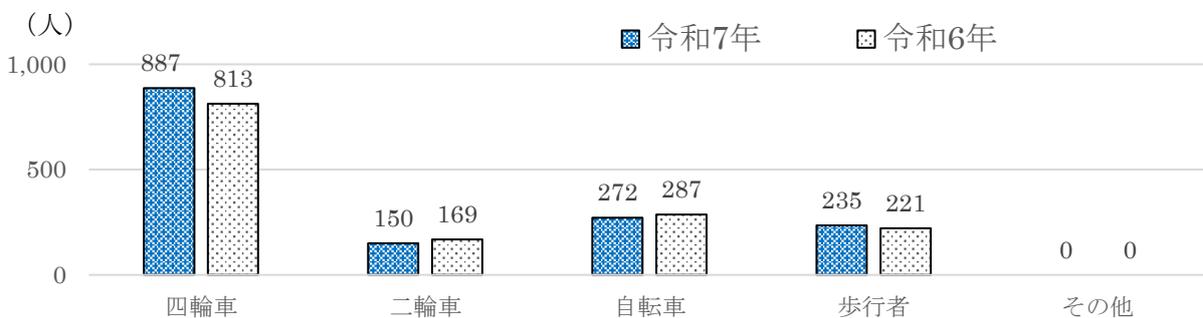
時間帯別で最も多かったのは、6時から8時までの時間帯で223件（全事故の17.7%、前年比-22件）でした。また、6時から10時までの時間帯に445件（同35.3%、前年比-1件）、16時から20時までの時間帯に379件、（同30.1%、前年比+25件）の事故が発生しており、朝夕の通勤時間帯の事故が多くなっています。

## 8 道路形状別発生状況



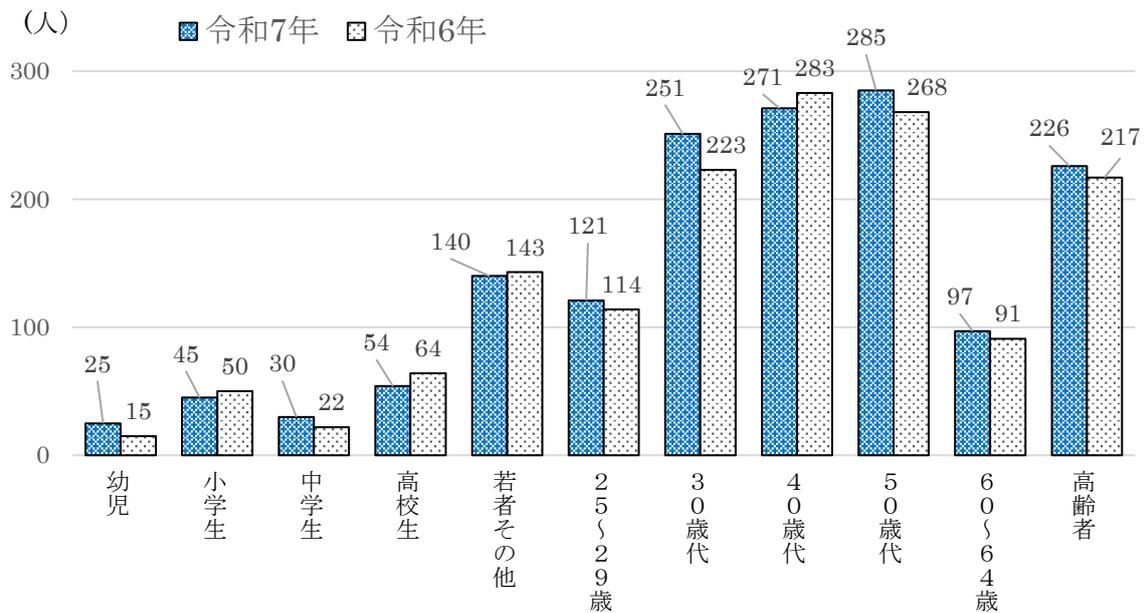
道路形状別では、単路（直線）が410件と最も多くなっていますが、交差点事故（信号無及び信号有）の合計は575件、前年比+5件で、全事故の45.6%を占めています。

## 9 死傷者の状態別発生状況



死傷者の状態別では、四輪車乗車中が最も多く887人（全事故の57.4%、前年比+74人）、次いで自転車の272人（同17.6%、同-15人）でした。歩行者の死傷者数は235人（同15.2%、同+14人）ですが、死者は3人で、歩行者の死傷者の内、約78人に1人が亡くなっています。歩行者以外の死傷者は約262人に1人が亡くなっていますので、対歩行者事故は死亡事故に発展する可能性が高くなっています。

## 10 死傷者の年齢層別発生状況



死傷者が最も多いのは50歳代の285人（死傷者の18.5%、前年比+17人）でした。